

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	スポーツ科学科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	救急処置法Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	
担当教員	井上 佳子	実務経験とその関連資格	修士、JSPO-AT、日本赤十字社救急法指導員、日本ライフセービング協会BLSインストラクター			
《授業科目における学習内容》 本講義では、スポーツ現場における生命に関わる重大な事態から日常的な外傷・障害まで、緊急時に適切な初期対応を行うための知識と技術を習得する。緊急時対応計画(EAP)の策定プロセスを理解し、教職員・部活動指導員といった内部関係者や外部指導者、救急隊等といかに連携するかを学ぶ。また、心肺蘇生法(BLS)、熱中症、頭頸部外傷、心臓関連事故などに対する迅速な評価・処置法について、実践的なシミュレーション実習を通して習得することをねらいとする。						
《成績評価の方法と基準》 試験素点60%(筆記・実技試験) 出席点 20% 平常点 20%(実習への参加態度、シミュレーションでの連携・リーダーシップ等を評価)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 公認アスレティックトレーナー 専門テキスト⑤「救急対応」(最新版) 各種テーピング、救急キット、BLS用マネキン、AEDトレーナー、バックボード等						
《授業外における学習方法》 毎回の実技項目については、授業後に必ず手順を復習し、手順書を見なくても体が動くレベルまで自己研鑽に励むこと。また、自身が関わるスポーツ現場のEAP(緊急時対応計画)やAEDの設置場所を実際に確認してくること。						
《履修に当たっての留意点》 本科目は人命に直結する非常に重要な内容を含みます。実習では実際の現場を想定し、常に緊迫感と当事者意識を持って取り組んでください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	頭部外傷・脊髄損傷が疑われるサインの把握と、絶対に動かしはいけない状況を判断できる。	テキスト	脊髄損傷時の神経症状(デルマトーム等)を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	頭部外傷・脊髄損傷への対応			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	頭部保持(インライン・スタビライゼーション)と頸椎カラーの適切な装着ができる。	頸椎カラー	カラーのサイズ調整方法についてテキストを熟読してくる。	
		各コマにおける授業予定	頭頸部固定実習①(用手固定・カラー)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	スパインボード(バックボード)への全身固定とログロールをチームで実施できる	スパインボード	ログロール時のリーダーの役割・声掛けのタイミングを確認する。	
		各コマにおける授業予定	頭頸部固定実習②(ボード固定)			
第4回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	喘息発作やアナフィラキシーショックの症状を評価し、エピペンの補助等ができる。	エピペン	アナフィラキシーを引き起こす主な原因物質を調べてくる。	
		各コマにおける授業予定	内科的救急疾患①(呼吸器・アレルギー)	トレーナー		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	てんかん発作、過換気症候群、糖尿病の低血糖発作に対する適切な対応を理解する。	テキスト	過換気症候群に対するペーパーバッグ法が非推奨となった理由を調べる。	
		各コマにおける授業予定	内科的救急疾患②(神経・代謝)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	熱中症の発生メカニズムと重症度分類(Ⅰ度～Ⅲ度)を正確に理解する。	テキスト	WBGT(暑さ指数)の基準値について調べてくる。
		各コマにおける授業予定	環境による救急疾患①(熱中症の基礎)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	重症熱中症における全身冷却法(アイスバス等)の手順と、水分補給の知識を習得する。	冷却用具	アイスバスを作るために必要な氷の量や準備時間を想定してみる。
		各コマにおける授業予定	環境による救急疾患②(熱中症の対応)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	落雷事故の予防・対応、低体温症などの寒冷障害に対する処置法を理解する。	テキスト	落雷の危険性が高い場所と、安全な避難場所について調べる。
		各コマにおける授業予定	環境による救急疾患③(落雷・寒冷等)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	傷病者の状態に応じた徒手搬送法(1人・2人・複数人)を安全に実施できる。	テキスト	搬送者自身の腰痛を防ぐためのボディメカニクスを復習する。
		各コマにおける授業予定	患者の運搬法①(徒手搬送)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	担架・ストレッチャーを用いた搬送と、救急車への引き継ぎ手順を習得する。	担架	救急隊に引き継ぐ際の「SBAR」などの情報伝達フォーマットを調べる。
		各コマにおける授業予定	患者の運搬法②(担架搬送と引継ぎ)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	現場の特性(競技、対象年代等)に応じた救急用品・キットの選定と管理法を学ぶ。	各種救急用品	自分が担当する競技に必要な救急キットのリストを作成してくる。
		各コマにおける授業予定	救急キットの準備と管理		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	心臓関連事故等の内科的疾患が発生した想定で、役割分担を含めた初期対応を実施できる。	総合用具	BLSの手順、AEDの手配、救急要請の流れを頭の中でシミュレーションする。
		各コマにおける授業予定	総合シミュレーション①(内科疾患・BLS)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	頭頸部外傷が疑われる想定で、用手固定からスパインボード固定、搬送までを実施できる。	総合用具	チーム内での声掛け、リーダーの配置について班で打ち合わせる。
		各コマにおける授業予定	総合シミュレーション②(頭頸部外傷)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	クラブ活動中の事故発生から救急搬送、指導者への報告までの一連の流れを総合的に実施できる。	総合用具	EAPの流れを再確認し、イレギュラーな事態への対応策を持っておく。
		各コマにおける授業予定	総合シミュレーション③(総合シナリオ)		
第15回	実習・講義	授業を通じての到達目標	全15回の学習・実技内容を総括し、実技試験および筆記試験を通して到達度を確認する。	テキスト	実技試験に向けて、苦手な手技を班員同士で練習・確認しておく。
		各コマにおける授業予定	まとめと到達度評価(実技・筆記)		